

2024年度アグリビジネス創出フェア in 東海

東海生研 第4回セミナー（成果発表） 2024.12.6

13:00-13:10

挨拶・趣旨説明

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 理事 大石一史

13:10-13:25

亜熱帯果樹アボカドの栽培について ～気候変動に具体的な対策と廃棄園芸資材の活用～

岐阜県立岐阜農林高等学校 生物工学科アボカド班 山本大翔さん

現在、地球温暖化の影響で岐阜地域でも平均気温が上昇しており、50年後には平均気温が4℃上昇するといわれている。そこで私たちは、気温が上昇した後の気候に適した新たな農作物として亜熱帯果樹であるアボカドの導入を考え、岐阜県農業技術センターと栽培における技術について情報交換し共同研究を行っている。今年度は主に「園芸廃棄資材の活用」を重点に研究を行うことで、SDGs13「気候変動に具体的な対策を」と、SDGs12「つくる責任 つかう責任」のゴールを設定し取り組んでいる。



13:25-13:40

有機農業のさらなる発展と普及に向けて

岐阜県立恵那農業高等学校 生徒 原 佑介さん・原田啓希さん

本校ではキュウリの有機栽培に10年以上取り組んでいます。私たちは有機農業の更なる発展に向けて、“生産者と消費者”2つの視点から活動をしています。消費者には、収穫体験イベントや販売を通して有機農業への理解を促進したり、生産者には有機農業の普及を目指し、栽培管理体験イベントの実施や動画による栽培方法についての発信を行っています。また、より持続性を追求し、植物残渣を堆肥にする研究を行っています。

今年度は新たな取り組みとして、キュウリの有機栽培の様子を動画におさめ、有機農業について知りたい人が手軽に見れるようYouTubeへの投稿を試みています。まだチャンネルの開設にいたっていませんが、現在動画を順次作成中です。



13:40-13:55

地域の関係諸機関との協働を目指した課題研究 ～アカニシ、イボニシを用いた貝紫染めに関する研究～

愛知県立三谷水産高等学校 海洋資源科 生徒 小木曾智暁さん 杉浦 蓮さん

村上大和さん 久賀暁虎さん 西野龍弥さん

古代より利用されてきた貝紫染めを通じて地元の関係諸機関との協働を目指して、アカニシやイボニシの活用を研究している。貝から取れる鰓下腺と呼ばれる組織を集め染料を作製した後、実際に布を染めて使用できるか確認を行っていった。地元企業である藤浜染工株式会社や竹島クラフトセンターの協力を得ながら 地域に貢献できるよう研究を行っていく。

13:55-14:10

グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用したエゴマ栽培
～環境負荷低減農業の取組みと省力化に資する栽培技術の確立～

やまがたエゴマ協議会 土田敏行 氏

栽培面積が1ha未満ではうまくいっているエゴマ栽培が、3haを超えると収量減となり事業としては成立が難しくなっている。令和6年度は、昨年度までに取組んできた「堆肥を使った化学肥料低減」、「機械化による播種作業と乗用中耕機による中耕作業による省力化」の検証を進めるとともに直播による試験栽培に取組みその成果を発表したいと考えている。昨年発表以降、全国からの問い合わせや視察を頂いたが本協議会の課題解決には至っていない。今回の出展を通して省力化と環境負荷低減を進めるための、他の研究者などとの意見交換をすすめ課題解決の糸口を見つけたいと考えている。また、えごま油として販売を検討するなかで販路拡大についてのヒントを得たいと考えている。

14:10-14:25

広島県北部における食用サボテン生産への挑戦

ひろしまサボテン倶楽部(もぐもぐ農園) 浜井陽一 氏

2022年から2年間のメキシコ滞在中に驚いたのは、メキシコ人は昔からサボテンを健康的な野菜として食べているということである。

2023年夏に一時帰国し中部大学堀部准教授に相談した。冬には-5℃まで下がることもある、寒さが厳しい広島県北部で花の観賞用に露地で栽培されているサボテンを視察していただいたところ、食用サボテンとしての可能性があると行っていただいた。2024年春の本帰国から、広島県北部のサボテン情報を聞いては、茎節を集めて回り、夏に定植し無農薬で栽培した。成長はとても良く、秋に「ひろしまもぐもぐサボテン」として販売することができた。栽培は容易であり栄養価も高いため、野菜食材として魅力が十分あると考える。



今回の発表と出展を通じて、来年度以降の販路や加工品への用途の拡大を期待している。

14:25-14:40

多犯性の植物病原菌がもつ感染機構の解明と防御技術の開発

名古屋大学生命農学研究科 芦田 晃 (博士後期課程1年)

灰色かび病菌はほとんど全ての野菜、果物、花卉に感染し被害を出しており、世界的な問題となっています。このように1種類の植物病原菌が多くの農産物に感染して病気を引き起こす菌類は、多犯性病原菌と呼ばれます。本研究では、多犯性の病原菌である灰色かび病原菌が植物に感染する際に、特定の遺伝子を活性化して植物の免疫力を無力化する機能を持っていることを明らかにしました。また、得られた知見をもとに取り組んでいる植物を病原菌から防除する技術の開発についても紹介します。



14:40-14:55

よりよいアグリビジネスのための農林水産分野における知財活動

日本弁理士会 鷲見浩樹 氏

近年の統計によれば、農業経営では「生産コストの増加」と「販売単価の低迷」が大きな課題として挙げられている。「販売単価の低迷」の原因の1つとして、自社製品の後発模倣品が廉価で流通することにより、価格競争を避けられず、販売単価が低迷することが考えられる。本発表では、このような後発模倣品の流通対策との関係で「知財活動」がどのような効果を発揮し得るのか、知的財産の基本的な機能や農林水産分野における実際の事例を踏まえて説明する。